

平成 28 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 海津 正倫

最終学歴	東京大学大学院理学系研究科単位取得満期退学	
取得学位	理学博士（東京大学 博理1237）	
所属学会	日本地理学会、日本第四紀学会、日本地形学連合、東京地学協会、地理科学学会、東北地理学会	
専門分野	自然地理学、地形学、第四紀学、自然災害研究	
研究課題	沖積平野・海岸平野の地形発達史、第四紀末期の環境変動史、地球規模の環境変化と海岸環境、平野/海岸域の自然災害	
授業科目	学部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然地理学 I, II</li> <li>・地形学</li> <li>・災害地理学</li> <li>・地理学講読・調査法（一）</li> <li>・地理学演習（一）</li> <li>・地理学卒業演習（一）</li> </ul>
	大学院修士課程担当科目 （博士前期課程含）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地形学特論</li> <li>・自然地理学演習 I・II</li> </ul>
	大学院博士後期課程担当科目	
	通信教育部担当科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然地理学</li> </ul>
【研究上の特記事項】	東京大学空間情報科学研究センター客員教授を務めた。	
【教育上の特記事項】	将来海外で活躍したいという海津ゼミ3年の女子学生について、タイ王国土地開発局（LDD）に依頼して学生インターンシップを実施してもらい、LDDの活動内容、調査・研究方法、土壌標本作製の実演等を紹介してもらったほか、現場へ出かけるフィールドワークを実施してもらった。	
【社会的活動】	日本地理学会代議員、日本第四紀学会評議員、日本学術会議連携会員、国土交通省土地履歴調査企画委員会委員長、愛知県埋蔵文化財調査センター専門委員、岐阜県図書館特別顧問、豊田市史自然部会副部会長など	
【学内活動】 (学内職歴を含む)	総合研究所所長、博物館委員会委員、文学部人事委員会委員などを務めた。	

研究業績[著書、学術論文等]				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概要
(著書)				
① JAPAN AFTER 3/11	共著	2016年11月	University Press of Kentucky	東北地方における東日本大震災の津波災害と地形環境について執筆した。
② 自然地理学事典	共著	2017年1月	朝倉書店	三角州、海岸平野/海成段丘について解説文を執筆。
③ 地形の辞典	共著	2016年11月	朝倉書店	編集者としてとりまとめを行うとともに、執筆者として多数の項目を執筆した。
(学術論文)				
① Coastal erosion in the Lower Central Plain, Thailand	単著	2017年3月	奈良大地理	タイ王国中央平原の海岸侵食について衛星画像解析などにもとづいて論じた。
②				
③				
(学会発表)				
① 防災に関わる沖積低地の地形分類の問題点と課題	単著	2017年3月	日本地理学会春季学術大会	沖積低地の地形分類に関する問題点と課題について述べた。
② 防災における土地条件と正しい地形用語の使用	単著	2016年11月	日本学術会議・防災学術連携体シンポジウム	自然災害に関わる地形用語の使用について述べた。
③ 2004年スマトラ島沖地震で津波に覆われたタイ王国ナムケム平野の10年後における地形と堆積物の変化	共著	2016/10月	日本地形学連合秋季学術大会	津波堆積物に覆われたナムケム平野の10年後における地形と堆積物の変化について論じた。
④ 奈良市旧市街地北部で2013年に発生した水害について	共著	2016年11月	東京大学CSISDay	奈良市で2013年に集中豪雨によって発生した水害について調べた研究を発展させて地形を反映した流水の流れとの関係を明らかにした。
⑤				
(その他)				
① 災害と防災シリーズ 4. 豪雨・台風	共著	2017年2月	帝国書院	豪雨・高潮などによる水害についてわかりやすく解説した。
② 防災における土地条件と正しい地形用語の使用	単著	2016年11月	学術の動向	自然災害に関わる地形用語の使用について述べた。
③				